



# はじめのいっぽ

令和5年度  
8月号

令和5年7月31日

認定こども園

東野田ちどり保育園

東野田ちどりキッズ・庁舎内

江川 永里子

とてもきびしい暑さの夏がやって来ました。  
屋上での安田式プール遊びは1クラスずつ楽しんでいきます。  
今年も夏野菜  
(トマト・キュウリ・ピーマン・ナス・オクラ)が豊作でした。  
玄関ではすず虫が美しい声で鳴いています。



**夏**を十分に感じながら、熱中症対策を重視しつつ

「楽しい夏」を経験したいと思います。



～アドラーより～

## 子どもの課題に口を出す弊害

子どもから頼まれもしないのに、親が子どもの課題に介入して口を出すと、次のような弊害がおこるかもしれませぬ。

### 1. 自信を失う

子どもは、「親が手伝ってくれたから課題を解決できたけれど、もし手伝ってくれなかったら、自分ひとりでは解決できなかつたんじゃないか」と感じるかもしれません。そういう体験がくり返されるうちに、「自分ひとりで人生の問題を解決する能力がないんだ」と思い込んでしまつて、自信を失うかもしれません。

これでは<自立する>という子育ての目標が達成できなくなつてしまいます。

### 2. 依存的になる

子どもは、「なんだ、自分で考えなくても、親がかわりに考えて、課題を解決してくれるんじゃないか」と感じるかもしれません。そうなると、いつでも「私にはできない。かわりに解決して!」と、依存的になつてしまうかもしれません。これまた<自立する>という子育ての目標から遠ざかつてしまいます。

### 3. 反抗的になる

積極的なタイプの子どもは、「自分でできるんだから、余計なおせっかいはしないでくれ」と感じて、反抗的になるかもしれません。そうなると、ほんとうに親や他の人の援助が必要なときでも、むきになつてひとりで課題を解決しようとして、かえつて失敗することだつてあるかもしれません。また、他の人と調和して暮らしていくことが苦手になるかもしれず、そうなると<社会と調和して暮らす>という子育ての目標が達成できなくなります。

### 4. 失敗を人のせいにするようになる

課題がうまく解決できればいいのですが、解決できなかったとき、あるいは「親が手を出さうまうまかかつたんだ」と言つてみたり、あるいは「親が手伝ってくれないからうまうまかかつたんだ」と言つてみたりして、失敗を人のせいにして、自分で責任をとろうとしなくなるかもしれません。

### 5. 親が忙しくなる

不必要な手伝いをしているひと、ひどく忙しい生活になつてしまいますよ。